

教科	国語	履修学年	3年	指導時間	140時間	担当者	南 穂、末延 昭二、渡邊 綾子	区分	必修
----	----	------	----	------	-------	-----	-----------------	----	----

教科の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して社会生活に必要な国語の特質を理解し適切に使うことができるようにするとともに、人との関わり合いの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養い、言葉の価値を認識して言語感覚を豊かにし、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。
-------	--

観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
内容のまとめりことの評価規準	「A 話すこと・聞くこと」	ア 提案や主張など自分の考えを話したり、それらを聞いて質問したり評価などを述べたりする活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫している。</li> <li>自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫している。</li> <li>話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分の考えを広げたり深めたりしている。</li> <li>目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝え合う内容を検討している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>積極的に場の状況に応じて言葉を選び、学習課題に沿って提案しようとしている。</li> <li>進んで情報の信頼性の確かめ方を理解して使い、学習の見通しをもって主張しようとしている。</li> </ul>	
		イ 互いの考えを生かしながら議論や討論をする活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫している。</li> <li>進行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりしている。</li> <li>目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝え合う内容を検討している。</li> <li>場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫している。</li> <li>話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分の考えを広げたり深めたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>粘り強く論理の展開を考え、今までの学習を生かして議論しようとしている。</li> <li>積極的に相手や場に応じた言葉遣いを使い、学習の見通しをもって討論しようとしている。</li> </ul>	
	「B 書くこと」	ア 関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書く活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。</li> <li>理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</li> <li>和語、漢語、外来語などを使い分けることを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にしている。</li> <li>表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫している。</li> <li>文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。</li> <li>目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えている。</li> <li>論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>粘り強く自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫し、学習課題に沿って批評する文章を書こうとしている。</li> <li>積極的に情報の信頼性の確かめ方を理解して使い、学習の見通しをもって批評する文章を書こうとしている。</li> </ul>
		イ 情報を編集して文章にまとめるなど、伝えたいことを整理して書く活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>話や文章の種類とその特徴について理解を深めている。</li> <li>情報の信頼性の確かめ方を理解して使っている。</li> <li>身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書いている。</li> <li>具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。</li> <li>目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>積極的に文章の種類を選択し、学習の見通しをもって新聞にまとめようとしている。</li> <li>進んで効果的に文字を書き、今までの学習を生かして発表のための資料を作成しようとしている。</li> </ul>
	「C 読むこと」	ア 論説や報道などの文章を比較するなどして読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。</li> <li>第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。</li> <li>慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</li> <li>和語、漢語、外来語などを使い分けることを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章の種類を踏まえて、論理の展開の仕方などを捉えている。</li> <li>文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。</li> <li>文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価している。</li> <li>「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>粘り強く論理の展開の仕方を捉え、学習課題に沿って考えたことについて討論しようとしている。</li> <li>積極的に話や文章の種類とその特徴について理解し、今までの学習を生かして考えたことについてレポートにまとめようとしている。</li> </ul>
		イ 詩歌や小説などを読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて理解している。</li> <li>自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。</li> <li>歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。</li> <li>長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価している。</li> <li>文章の種類を踏まえて、論理や物語の展開の仕方などを捉えている。</li> <li>「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。</li> <li>「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進んで表現の仕方について評価し、学習課題に沿って批評しようとしている。</li> <li>粘り強く時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて理解し、今までの学習を生かして考えたことを説明しようとしている。</li> </ul>
ウ 実用的な文章を読み、実生活への生かし方を考える活動		<ul style="list-style-type: none"> <li>情報の信頼性の確かめ方を理解して使っている。</li> <li>話や文章の種類とその特徴について理解を深めている。</li> <li>具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章の種類を踏まえて、論理の展開の仕方などを捉えている。</li> <li>文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。</li> <li>文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>積極的に情報の信頼性の確かめ方を使って、今までの学習を生かして読んだ内容について実生活への生かし方を考えようとしている。</li> <li>進んで文章を批判的に読み、学習課題に沿って読んだ内容について実生活への生かし方を考えようとしている。</li> </ul>	

主な評価資料	授業ノート・学習プリント・単元テスト 書写作品・聞き取りテスト・定期考査など	授業ノート・学習プリント・単元テスト 聞き取りテスト、定期考査など	授業内の様子・リアクションペーパー
評価の割合	30%	40%	30%

観点別の評価基準	観点別学習状況の評価		学習の実現状況
	A	十分満足できると判断されるもの	70%以上
	B	おおむね満足できると判断されるもの	50%以上 70%未満
	C	努力を要すると判断されるもの	50%未満

5段階 評定基準	評定		各評定の範囲
	5	十分満足できるもののうち、特に程度が高いもの	80%以上
	4	十分満足できると判断されるもの	70%以上 80%未満
	3	概ね満足できると判断されるもの	50%以上 70%未満
	2	努力を要すると判断されるもの	20%以上 50%未満
1	一層努力を要すると判断されるもの	20%未満	

教科	社会	履修学年	3年	指導時間	148時間	担当者	小島 康嵩、江藤 徹 明石 卓	区分	必修
----	----	------	----	------	-------	-----	--------------------	----	----

教科の目標	主体的に学び、自己の生き方、あり方について深く考え、健全な批判力をもた公民としての資質の育成。地理・歴史・公民的分野を統合させた学びの体系の創成。
-------	---

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
内容のまとめりのことの評価規準	近現代の日本と世界	我が国の近現代の歴史とそれにかかる世界の動きから課題を見出し、歴史の流れと現代の特色を多面的・多角的に考察し、公正に判断している。	我が国の近現代の歴史とそれにかかる世界の動きに対する関心を高め、意欲的に追究し、国際協調の精神を養い国民としての自覚をもととする。	
	私たちの暮らしと現代社会	我が国の現代社会の特徴や、現代社会に対する見方・考え方を働かせ、現代社会が抱える課題を理解している。	社会的事象に対する関心を高め、課題を意欲的に追究し、広い視野に立つてよりよい社会を考え公民としての自覚をもって責任を果たそうとする。	
	個人を尊重する日本国憲法	人間尊重の考え方を基本的な人権を中心に深め、日本国憲法に基づいて政治が行われていること、民主政治の仕組みのあらましや公正な裁判の保障、国民の政治参加の大切さに気づき、その知識を身につけている。	我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることや議会制民主主義や選挙の意義について多面的・多角的に考察し、民衆的な政治の在り方について公正に判断している。	人間の尊重についての考え方や日本国憲法に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、民主的な政治について考えようとしている。
	私たちの暮らしと民主政治 私たちの暮らしと経済	民主主義や経済活動の意義、議会制民主主義や市場経済の基本的な考え方、生産の仕組みのあらまし、金融の働きについて理解し、その知識を身につけている。	社会における企業の役割と社会的責任、社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善、民主主義が抱える問題点について多面的・多角的に考察し、個人や企業の経済活動の在り方について様々な立場から公正に判断している。	自分自身と社会の在り方に向き合い、主体的に社会に関わる態度を持つようとしている。民主主義と私の暮らし、経済と生活の関わり合いについて、自らの生活に結び付けている。
	安心して暮らせる社会 国際社会に生きる私たち 私たちが未来の社会を開く	世界平和の実現と人類の福祉の増大にかかわって、国家間の相互の主権の尊重と協力、日本国憲法の平和主義について理解を深めるとともによりよい社会を築いていくために解決すべき課題について理解し、その知識を身につけている。	国際社会の諸問題から課題を見出し、世界平和の実現と人類の福祉の増大について、多面的・多角的に考察し、これからのよりよい社会の在り方について、様々な観点や立場から公正に判断している。	国際社会の諸問題に対する関心を高め、課題を意欲的に追究し、世界平和を確立するための熱意と協力の態度が育つとともに、これからのよりよい社会を築くために解決すべき諸課題を考え続けようとする態度が育っている。

主な評価資料	定期考査、提出物	定期考査、提出物	定期考査、提出物
--------	----------	----------	----------

評価の割合	30%	40%	30%
-------	-----	-----	-----

観点別の評価基準	観点別学習状況の評価		学習の実現状況	
	A	十分満足できると判断されるもの	70%以上	
	B	おおむね満足できると判断されるもの	50%以上 70%未満	
	C	努力を要すると判断されるもの	50%未満	

5段階 評定基準	評定		各評定の範囲	
	5	十分満足できるもののうち、特に程度が高いもの	80%以上	
	4	十分満足できると判断されるもの	70%以上 80%未満	
	3	概ね満足できると判断されるもの	50%以上 70%未満	
	2	努力を要すると判断されるもの	20%以上 50%未満	
	1	一層努力を要すると判断されるもの	20%未満	

教科	理科	履修学年	3年	指導時間	148時間	担当者	小浦 真史、渡部 啓太 茂木 篤、島中 和人	区分	必修
----	----	------	----	------	-------	-----	---------------------------	----	----

教科の目標	自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。
-------	---

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとめりごとの評価規準	(1)運動とエネルギー 物体の運動とエネルギーを日常生活や社会と関連付けながら、力のつり合いと合成・分解、運動の規則性、力学的エネルギーを理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。	運動とエネルギーについて、見通しをもって観察、実験などを行いその結果を分析して解釈し、力のつり合い、合成や分解、物体の運動、力学的エネルギーの規則性を見出して表現している。また、探究の過程を振り返っている。	運動とエネルギーに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
	(2)化学変化とイオン 化学変化をイオンのモデルと関連付けながら、水溶液とイオン、化学変化と電池を理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。	化学変化について、見通しをもって観察、実験などを行い、イオンと関連付けてその結果を分析して解釈し、化学変化における規則性や関係性を見出して表現している。また、探究の過程を振り返っている。	化学変化とイオンに関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
	(3)生命の連続性 生命の連続性に関する事物・現象の特徴に着目しながら、生物の成長と殖え方、遺伝の規則性と遺伝子、生物の種類の多様性と進化を理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。	生命の連続性について、観察・実験などを行い、その結果や資料を分析して解釈し、生物の成長と殖え方、遺伝現象、生物の種類の多様性と進化について特徴や規則性を見出して表現している。また、探究の過程を振り返っている。	生命の連続性に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふりかえったりするなど、科学的に探究しようとしている。
	(4)地球と宇宙 身近な天体とその運動に関する特徴に着目しながら、天体の動きと地球の自転・公転、太陽系と構成を理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。	地球と宇宙について、天体の観察、実験などを行い、その結果や資料分析して解釈し、天体の運動と見え方についての特徴や規則性を見出して表現している。また、探究の過程を振り返っている。	地球と宇宙に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
	(5)科学技術と人間 日常生活や社会と関連付けながら、エネルギーと物質、自然環境の保全と科学技術の利用を理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。	日常生活や社会で使われているエネルギーや物質について、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈するとともに、自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について、科学的に考察して判断している。	科学技術と人間に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
	(6)自然と人間 日常生活や社会と関連付けながら、生物と環境、自然環境の保全と科学技術の理解するとともに、自然環境を調べる観察、実験などに関する技能を身に付けている。	身近な自然環境や地域の自然災害などを調べる観察、実験などを行い、自然環境の保全と科学技術の在り方について、科学的に考察して判断している。	自然と人間に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったりふりかえったりするなど、科学的に探究しようとしている。

主な評価資料	ワークシート、小テスト 定期考査、パフォーマンステスト 実験レポート	ワークシート、小テスト 定期考査、実験レポート	提出物、小テスト、定期テスト 学習に取り組む様子
--------	--	----------------------------	-----------------------------

評価の割合	30%	40%	30%
-------	-----	-----	-----

観点別の評価基準	観点別学習状況の評価		学習の実現状況
	A	十分満足できると判断されるもの	70%以上
	B	おおむね満足できると判断されるもの	50%以上 70%未満
	C	努力を要すると判断されるもの	50%未満

5段階 評定基準	評定		各評定の範囲
	5	十分満足できるもののうち、特に程度が高いもの	80%以上
	4	十分満足できると判断されるもの	70%以上 80%未満
	3	概ね満足できると判断されるもの	50%以上 70%未満
	2	努力を要すると判断されるもの	20%以上 50%未満
	1	一層努力を要すると判断されるもの	20%未満

教科	数学	履修学年	3年	指導時間	148時間	担当者	粕谷 和宏、井原 博一 篠原 鉄志	区分	必修
----	----	------	----	------	-------	-----	----------------------	----	----

教科の目標	<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。</p> <p>(3)数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。</p>
-------	--

観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとめごとの評価規準	A 数と式	<ul style="list-style-type: none"> <li>二次の乗法公式や因数分解の公式を適切に用いて計算することができる。</li> <li>集団と命題に関する基本的な概念を理解している。</li> <li>不等式の解の意味や不等式の性質について理解するとともに、一次不等式の解を求めることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題を解決する際に、既に学習した計算の方法と関連付けて、式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりすることができる。</li> <li>集合の考えを用いて命題を論理的に考察し、簡単な命題の証明をすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事象を数と式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしていたりしている。</li> <li>問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしていたりしている。</li> </ul>
	B 図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>円周角と中心角の関係の意味を理解し、それが証明できることを知っている。</li> <li>三平方の定理の意味を理解し、それが証明できることを知っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>円周角と中心角の関係や三平方の定理を具体的な場面で活用することができる。</li> <li>円周角と中心角の関係や三平方の定理を見いだすことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>円周角と中心角の関係や三平方の定理のよさを実感して粘り強く考え、三平方の定理について学んだことを生活や学習に生かそうとしていたり、三平方の定理を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしていたりしている。</li> </ul>
	C 関数	<ul style="list-style-type: none"> <li>関数<math>y=ax^2</math>や二次関数などの値の変化やグラフの特徴について理解している。</li> <li>二次不等式の解と二次関数のグラフとの関係について理解し、二次関数のグラフを用いて二次不等式の解を求めることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事象を二次関数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしていたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしていたりしている。</li> <li>問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしていたりしている。</li> </ul>
	D データの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>データを表やグラフに整理したり、分散や標準偏差などの基本的な統計量を求めたりすることができる。</li> <li>具体的な事象において仮説検定の考え方を理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察することができる。</li> <li>目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事象をデータの分析の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしていたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしていたりしている。</li> <li>問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしていたりしている。</li> </ul>

主な評価資料	小テスト、定期考査、課題、レポート	小テスト、定期考査、課題、レポート	小テスト、定期考査、課題、レポート
--------	-------------------	-------------------	-------------------

評価の割合	30%	40%	30%
-------	-----	-----	-----

観点別の評価基準	観点別学習状況の評価		学習の実現状況
	A	十分満足できると判断されるもの	70%以上
	B	おおむね満足できると判断されるもの	50%以上 70%未満
	C	努力を要すると判断されるもの	50%未満

5段階評価基準	評定		各評定の範囲
	5	十分満足できるもののうち、特に程度が高いもの	80%以上
	4	十分満足できると判断されるもの	70%以上 80%未満
	3	概ね満足できると判断されるもの	50%以上 70%未満
	2	努力を要すると判断されるもの	20%以上 50%未満
	1	一層努力を要すると判断されるもの	20%未満

# 令和8年度 評価規準

東京都立富士高等学校附属中学校

教科	音楽	履修学年	3年	指導時間	35時間	担当者	秋沢 希	区分	必修
----	----	------	----	------	------	-----	------	----	----

教科の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽活動の楽しさを探究することを通して、音や音楽への興味・関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。</li> <li>多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、表現の技能を伸ばし、創意工夫して表現する能力を高める。</li> <li>多様な音楽に対する理解を深め、幅広く主体的に鑑賞する能力を高める。</li> </ul>
-------	---

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとめごと の評価規準	歌唱	<ul style="list-style-type: none"> <li>曲のもっているよさや特質を味わい、自己のイメージや感情を生かして曲にふさわしい歌唱表現を工夫している。</li> <li>各声部の特徴と役割、声部の構造、曲の仕組みを感じ取っている。</li> <li>演奏を客観的にとらえ、全体の響きの調和に関心をもち、合唱表現を工夫している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>曲のもっているよさや特質に関心を持ち、自己のイメージや感情を生かして曲にふさわしい歌唱表現をすることに意欲的である。</li> <li>各声部の特徴と役割、声部の構造、曲の仕組みに関心をもっている。</li> <li>演奏を客観的にとらえ、全体の響きの調和に関心をもち、合唱表現をすることに意欲的である。</li> </ul>
	器楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽器の特徴(楽器固有の音色や響き、奏法の特徴や効果、楽器の色々な組み合わせなど)を生かして器楽表現をする技能を身に付けている。</li> <li>演奏を客観的にとらえ、全体の響きの調和を感じ取って合奏表現をする技能を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽器の特徴(楽器固有の音色や響き、奏法の特徴や効果、楽器の色々な組み合わせなど)を感じ取り、それらを生かして器楽表現を工夫している。</li> <li>演奏を客観的にとらえ、全体の響きの調和に関心をもち、合奏表現を工夫している。</li> </ul>
	創作	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽の諸要素の働きをイメージと関わらせて創作表現をする技能を身に付けている。</li> <li>拍子やリズムが生み出す表現効果に気をつけて創作表現をする技能を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽の諸要素の働きをイメージと関わらせて感じ取り、創作表現を工夫している。</li> <li>拍子やリズムが生み出す表現効果を感じ取っている。</li> </ul>
	鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽の様々な構成要素(声や楽器固有の音色とその変化の組み合わせ、リズムや拍子の特徴、リズムパターンの反復や変化、非拍節的なリズムの自由な動きや流れ、旋律の特徴や様々な音階、我が国及び世界の諸民族の音楽に見られる様々な音と音とのかかわり合い、形式など)の働き及び効果を理解し、楽曲の雰囲気や曲想とかかわらせて聞くための知識を身につけている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽の様々な構成要素(声や楽器固有の音色とその変化の組み合わせ、リズムや拍子の特徴、リズムパターンの反復や変化、非拍節的なリズムの自由な動きや流れ、旋律の特徴や様々な音階、我が国及び世界の諸民族の音楽に見られる様々な音と音とのかかわり合い、形式など)の働き及び効果を理解し、楽曲の雰囲気や曲想とかかわらせて聞くことに意欲的である。</li> </ul>

主な評価資料	ワークシート、実技テスト、定期考査	ワークシート、実技テスト、定期考査	ワークシート、実技テスト、定期考査
--------	-------------------	-------------------	-------------------

評価の割合	30%	40%	30%
-------	-----	-----	-----

観点別の 評価基準	観点別学習状況の評価		学習の実現状況
	A	十分満足できると判断されるもの	70%以上
	B	おおむね満足できると判断されるもの	50%以上 70%未満
	C	努力を要すると判断されるもの	50%未満

5段階 評定基準	評定		各評定の範囲
	5	十分満足できるもののうち、特に程度が高いもの	80%以上
	4	十分満足できると判断されるもの	70%以上 80%未満
	3	概ね満足できると判断されるもの	50%以上 70%未満
	2	努力を要すると判断されるもの	20%以上 50%未満
	1	一層努力を要すると判断されるもの	20%未満

# 令和8年度 評価規準

東京都立富士高等学校附属中学校

教科	美術	履修学年	3年	指導時間	35時間	担当者	廣瀬 直彦	区分	必修
----	----	------	----	------	------	-----	-------	----	----

教科の目標	<p>○楽しく美術の活動に取り組み、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を育てる。</p> <p>○対象を見つめ感じ取る力や想像力を高め、豊かに発想し構想する能力や、色や色彩などによる表現の技法を身につけ、意図に応じて創意工夫し美しく表現する能力を育てる。</p> <p>○自然の造形や美術作品などについての基礎的な理解や見方を広げ、美術文化に対する関心を高め、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を育てる。</p>
-------	--

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
内容のまとめりごとの評価規準	お面作り	<p>① 対象を見つめ、表現するものを自ら探し出して制作できる。</p> <p>② 対象を冷静に捉え、形の特徴や現象を見つける。</p>	<p>① 対象を単純な立体として捉えるだけでなく、全体的な表情として豊かに表現できる。</p> <p>② 写実性を意識して見つめ、感情や発見からイメージを広げ心豊の構想をする。</p>	<p>① 対象を注意深く観察し、基本となる形を理解する。</p> <p>② 写実的になるように細部まで描きこみ、粘り強い作品を制作している。</p>
	木材による建築造形	<p>① 木の特性を生かし、技法なども積極的に学ぼうとする。</p> <p>② これまでの造形活動を生かし、デザインや表現を意欲的に行う。</p>	<p>① 木の特性を理解し、立体性を生かした造形物を構想する。</p> <p>② 3次元を正しく理解し、豊かな表現を構想する。</p>	<p>① 木の特性を理解し、豊かな造形になるよう工夫し表現する。</p> <p>② 仕上げのイメージをしっかりとし、作品に合った仕上げで制作する。</p>
	シルバースクラッチ	<p>① 今までの技法を積極的に活用し、積極的に制作に取り組む。</p>	<p>① 鉛筆の特徴を理解し、構図から色彩まで構想し、表現する。</p>	<p>① これまでに学んだ表現技法を生かして創造的に表現する。</p> <p>② 技法を理解し表現する。</p>

主な評価資料	作品、制作過程の様子、定期考査	作品、制作過程の様子、定期考査	作品、制作過程の様子、授業に取り組む態度
--------	-----------------	-----------------	----------------------

評価の割合	30%	40%	30%
-------	-----	-----	-----

観点別の評価基準	観点別学習状況の評価		学習の実現状況
	A	十分満足できると判断されるもの	70%以上
	B	おおむね満足できると判断されるもの	50%以上 70%未満
	C	努力を要すると判断されるもの	50%未満

5段階 評定基準	評定		各評定の範囲
	5	十分満足できるもののうち、特に程度が高いもの	80%以上
	4	十分満足できると判断されるもの	70%以上 80%未満
	3	概ね満足できると判断されるもの	50%以上 70%未満
	2	努力を要すると判断されるもの	20%以上 50%未満
	1	一層努力を要すると判断されるもの	20%未満

令和8年度 評価規準

東京都立富士高等学校附属中学校

教科	保健体育	履修学年	3年	指導時間	105時間	担当者	中島 由香里、宋 強賢	区分	必修
----	------	------	----	------	-------	-----	-------------	----	----

教科の目標	体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
-------	---

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
内容のまとまりごとの評価規準	体づくり	○知識 ・運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などについて理解している。 ○技能 ・短距離走・リレーでは、中間走へのつなぎを滑らかにして速く走ることやバトンの受渡して次走者のスピードを十分高めることができる。 ・長距離走では、自己に適したペースを維持して走ることができる。	・自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	・体づくり運動に自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとするなど、話し合いに貢献しようとするなどをして、健康・安全を確保したりしている。
	陸上競技 短距離走 持久走	○知識 ・技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解している。 ○技能 ・短距離走・リレーでは、中間走へのつなぎを滑らかにして速く走ることやバトンの受渡して次走者のスピードを十分高めることができる。 ・長距離走では、自己に適したペースを維持して走ることができる。	・動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。	・陸上競技に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとするなど、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどをして、健康・安全を確保したりしている。
	武道	○知識 ・伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方などについて理解している。 ○技能 ・剣道やなぎなたでは、相手の動きの変化に応じた基本動作や基本となる技を用いて、相手の構えを崩し、しかけたり応じたりするなどの攻防をすることができる。	・攻防などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。	・武道に自主的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとするなど、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどをして、健康・安全を確保したりしている。
	ダンス	○知識 ・ダンスの名称や用語、踊りの特徴と表現の仕方、交流や発表の仕方、運動観察の方法、体力の高め方などについて理解している。 ○技能 ・創作ダンスでは、表したいテーマにふさわしいイメージを捉え、個や群で、緩急強弱のある動きや空間の使い方などで変化を付けて即興的に表現したり、簡単な作品にまとめて踊ることができる。	・表現などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	・ダンスに自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、作品や発表などの話し合いに貢献しようとするなど、一人一人の違いに応じた表現や役割を大切にしようとするなどをして、健康・安全を確保したりしている。
	水泳	○知識 ・技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解している。 ○技能 ・クロールでは、手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで長く泳いだり速く泳いだりすることができる。 ・平泳ぎでは、手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで長く泳いだり速く泳いだりすることができる。 ・背泳ぎでは、手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで泳ぐことができる。 ・バタフライでは、手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで泳ぐことができる。 ・複数の泳法で泳ぐこと、又はリレーをすることができる。	・泳法などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。	・水泳に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとするなど、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどをして、健康・安全を確保したりしている。
	球技	○知識 ・技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解している。 ○技能 ・ゴール型では、安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる。 ・ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。	・攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	・球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとするなど、作戦などについての話し合いに貢献しようとするなど、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとするなど、互いに助け合い教え合おうとするなどをして、健康・安全を確保したりしている。
	体育理論	○知識 ・文化としてのスポーツの意義について理解している。	・文化としてのスポーツの意義について、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。	・文化としてのスポーツの意義についての学習に自主的に取り組もうとしている。
	保健	・身体には、環境に対してある程度まで適応能力があること。身体の適応能力を超えた環境は、健康に影響を及ぼすことがあること。また、快適で能率のよい生活を送るための温度、湿度や明るさには一定の範囲があることを理解している。 ・飲料水や空気は、健康と密接な関わりがあること。また、飲料水や空気を衛生的に保つには、基準に適合するよう管理する必要があることを理解している。 ・人間の生活によって生じた廃棄物は、環境の保全に十分配慮し、環境を汚染しないように衛生的に処理する必要があることを理解している。	・健康と環境に関する情報から課題を発見し、その解決に向けて思考し判断しているとともに、それらを表現している。	・健康と環境についての学習に自主的に取り組もうとしている。

主な評価資料	動きの観察と実技テスト 審判などによる理解度の把握およびワークシート・定期考査	グループ活動の観察およびワークシート	相互評価などの活動の観察およびワークシート・授業への出席および参加状況
--------	--	--------------------	-------------------------------------

評価の割合	30%	40%	30%
-------	-----	-----	-----

観点別の評価基準	観点別学習状況の評価		学習の実現状況
	A	十分満足できると判断されるもの	70%以上
	B	おおむね満足できると判断されるもの	50%以上 70%未満
	C	努力を要すると判断されるもの	50%未満

5段階 評定基準	評定		各評定の範囲
	5	十分満足できるもののうち、特に程度が高いもの	80%以上
	4	十分満足できると判断されるもの	70%以上 80%未満
	3	概ね満足できると判断されるもの	50%以上 70%未満
	2	努力を要すると判断されるもの	20%以上 50%未満
	1	一層努力を要すると判断されるもの	20%未満

令和8年度 評価規準

東京都立富士高等学校附属中学校

教科	技術・家庭 技術分野	履修学年	3年	指導時間	18時間	担当者	柴下 和嘉	区分	必修
----	---------------	------	----	------	------	-----	-------	----	----

教科の目標	技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
-------	--

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
内容のまとめと ごとの評価規準	生活や社会を支える 生物育成の技術	育成する生物の成長、生態の特性等の原理・法則と、育成環境の調節方法等の基礎的な技術の仕組みについて理解している。	生物育成の技術に込められた問題解決の工夫について考えている。	主体的に生物育成の技術について考え、理解しようとしている。
	生物育成の技術による 問題の解決	安全・適切な栽培又は飼育、検査等ができる技能を身に付けている。	問題を見いだして課題を設定し、育成環境の調節方法を構想して育成計画を立てるとともに、栽培又は飼育の過程や結果の評価、改善及び修正について考えている。	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりしようとしている。
	社会の発展と生物育成の 技術	生活や社会、環境との関わりを踏まえて、生物育成の技術の概念を理解している。	生物育成の技術を評価し、適切な選択と管理・運用の在り方や、新たな発想に基づく改良と応用について考えている。	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生物育成の技術を工夫し創造しようとしている。
	ネットワークを利用した 双方向性のあるコンテンツの プログラミングによる問題の 解決	情報通信ネットワークの構成と、情報を利用するための基本的な仕組みを理解し、安全・適切なプログラムの制作、動作の確認及びデバッグ等ができる技能を身に付けている。	問題を見いだして課題を設定し、使用するメディアを複合する方法とその効果的な利用方法を構想して情報処理の手順を具体化するとともに、制作の過程や結果の評価、改善及び修正について考えている。	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりしようとしている。
	計測・制御のプログラミング による問題の解決	計測・制御システムの仕組みを理解し、安全・適切なプログラムの制作、動作の確認及びデバッグ等ができる技能を身に付けている。	問題を見いだして課題を設定し、入出力されるデータの流れを元に計測・制御システムを構想して情報処理の手順を具体化するとともに、制作の過程や結果の評価、改善及び修正について考えている。	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりしようとしている。
	社会の発展と情報の 技術	生活や社会、環境との関わりを踏まえて、情報の技術の概念を理解している。	情報の技術の評価し、適切な選択と管理・運用の在り方や、新たな発想に基づく改良と応用について考えている。	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、情報の技術を工夫し創造しようとしている。

主な評価資料	提出物、HP作品、栽培レポート、学習に取り組む様子、定期考査	提出物、HP作品、栽培レポート、学習に取り組む様子、定期考査、作品	提出物、HP作品、栽培レポート、学習に取り組む様子、定期考査
評価の割合	30%	40%	30%

観点別の 評価基準	観点別学習状況の評価		学習の実現状況
	A	十分満足できると判断されるもの	70%以上
	B	おおむね満足できると判断されるもの	50%以上 70%未満
	C	努力を要すると判断されるもの	50%未満

5段階 評定基準	評定		各評定の範囲
	5	十分満足できるもののうち、特に程度が高いもの	80%以上
	4	十分満足できると判断されるもの	70%以上 80%未満
	3	概ね満足できると判断されるもの	50%以上 70%未満
	2	努力を要すると判断されるもの	20%以上 50%未満
	1	一層努力を要すると判断されるもの	20%未満

# 令和8年度 評価規準

東京都立富士高等学校附属中学校

教科	技術・家庭 家庭分野	履修学年	3年	指導時間	18時間	担当者	能森 裕子	区分	必修
----	---------------	------	----	------	------	-----	-------	----	----

教科の目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
-------	---

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
内容のまとめ「こと」の評価規準	幼児の生活と家族	・幼児の発達と生活の特徴が分かり、子供が育つ環境としての家族の役割について理解している。 ・幼児にとっての遊びの意義や幼児との関わり方について理解している。	幼児との関わり方について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、幼児の生活と家族について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
	家族・家庭や地域との関わり	・家族の互いの立場や役割が分かり、協力することによって家族関係をよりよくできることについて理解している。 ・家庭生活は地域との相互の関わりで成り立っていることが分かり、高齢者など地域の人々と協働する必要があることや介護など高齢者との関わり方について理解している。	家族関係をよりよくする方法及び高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、家族・家庭や地域との関わりについて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
	家族・家庭生活についての課題と実践		家族、幼児の生活又は地域の生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、計画を立てて実践した結果を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、家族、幼児の生活又は地域の生活について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、家庭や地域などで実践しようとしている。
	衣食住の生活についての課題と実践		食生活、衣生活、住生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、計画を立てて実践した結果を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、食生活、衣生活、住生活について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、家庭や地域などで実践しようとしている。

主な評価資料	ワークシート、課題レポート、定期考査、実習	ワークシート、課題レポート、定期考査	学習に取り組む様子
--------	-----------------------	--------------------	-----------

評価の割合	30%	40%	30%
-------	-----	-----	-----

観点別の評価基準	観点別学習状況の評価		学習の実現状況
	A	十分満足できると判断されるもの	70%以上
	B	おおむね満足できると判断されるもの	50%以上 70%未満
	C	努力を要すると判断されるもの	50%未満

5段階 評定基準	評定		各評定の範囲
	5	十分満足できるもののうち、特に程度が高いもの	80%以上
	4	十分満足できると判断されるもの	70%以上 80%未満
	3	概ね満足できると判断されるもの	50%以上 70%未満
	2	努力を要すると判断されるもの	20%以上 50%未満
	1	一層努力を要すると判断されるもの	20%未満

教科	英語	履修学年	3年	指導時間	148時間	担当者	岩鶴 百葉、南 昭仁 上田 みつ子、羽立 朋代	区分	必修
----	----	------	----	------	-------	-----	----------------------------	----	----

教科の目標	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、日常的・社会的な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。
-------	--

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
内容のまとめりことの評価規準	聞くこと	[知識] 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的话题や社会的な話題について、はっきりと話された文章等を聞いて、その内容を捉える技能を身につけている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題についてはっきりと話される文章を聞いて、必要な情報や概要、要点を捉えている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的に英語で話されることを聞こうとしている。
	読むこと	[知識] 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的话题や社会的な話題について書かれた短い文章等を読んで、その内容を捉える技能を身につけている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について書かれた短い文章を読んで、必要な情報や概要、要点を捉えている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、書き手に配慮しながら、主体的に英語で書かれたことを読もうとしている。
	話すこと[やり取り]	[知識] 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的话题や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて伝え合う技能を身につけている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、伝え合っている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、話し手に配慮しながら、主体的に英語を用いて伝え合おうとしている。
	話すこと[発表]	[知識] 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的话题や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて話す技能を身につけている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、伝え合っている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、話し手に配慮しながら、主体的に英語を用いて話そうとしている。
	書くこと	[知識] 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的话题や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、またはそれらを正確に用いて書く技能を身につけている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、伝え合っている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、話し手に配慮しながら、主体的に英語を用いて書こうとしている。

主な評価資料	パフォーマンステスト、小テスト、定期考査	パフォーマンステスト、小テスト、定期考査	パフォーマンステスト、ワークシート
--------	----------------------	----------------------	-------------------

評価の割合	30%	40%	30%
-------	-----	-----	-----

観点別の評価基準	観点別学習状況の評価		学習の実現状況
	A	十分満足できると判断されるもの	70%以上
	B	おおむね満足できると判断されるもの	50%以上 70%未満
	C	努力を要すると判断されるもの	50%未満

5段階 評定基準	評定		各評定の範囲
	5	十分満足できるもののうち、特に程度が高いもの	80%以上
	4	十分満足できると判断されるもの	70%以上 80%未満
	3	概ね満足できると判断されるもの	50%以上 70%未満
	2	努力を要すると判断されるもの	20%以上 50%未満
	1	一層努力を要すると判断されるもの	20%未満